



## 令和6年度 5月の園だより



段原みみよう保育園

### 対話の中で育む意欲

比治山の新緑がとてもきれいな季節になりました。5月のさわやかな風に揺られて、園庭で元気に泳ぐこいのぼりを見つけては、子どもたちは指さしたり、手を振ったり、毎日嬉しそうに見上げています。

さて、入園、進級してあっという間に1か月がたちました。初めてお子さんと離れて過ごす保護者の方もいらっしゃると思います。そして、登園時はお子さんと離れる不安と涙する姿に後ろ髪ひかれる思いだったのではないのでしょうか。お迎えの際に「ただいま」とお子さんをギュッと抱きしめてくださる保護者の方の愛情が安心感となり、少しずつですが職員から「今日は、登園時〇〇ちゃんが手を伸ばしてきてくれたんです。」や「声をかけるとほほえんでくれることが増えてきました。」など子どもたちの姿にも変化が見られてきています。これはきっと、ご家庭においてたくさんの愛情を注いでくださっているからこそだと思います。大好きな人にギュッと抱きしめられることは、そこから優しい温もりがたくさん伝わって心が落ち着きます。私たちも、一日も早く子どもたちにとって安心できる存在になれるようたくさんの愛情をもって関わっていきたいと思います。

今年度、毎週、年中・年長児が、比治山に散策に出かけています。4月初旬は、桜が満開で風に吹かれてひらひら舞う桜吹雪を歓声をあげて喜んでいました。また、先週は、暖かくなってきたからか、たくさんの虫を発見し、虫かごに捕まえては、「これは何の虫？」と図鑑を開いて調べたり、木の木陰や水路の溝など「ここに虫がたくさんいるよ。」と公園内を散策する中で、虫の好きそうな場所を友だちと見つけては教えてくれていました。保育園の側にある比治山は、子どもたちに四季折々の変化はもちろんですが、自然の不思議さや面白さという魅力を味あわせてくれています。そして、その魅力が、子どもたちの好奇心や探求心をくすぐり、「知りたい」「やってみたい」「やってみよう」という意欲も引き立ててくれています。

みみようの保育は、子どもたちに何かを教えたり、やらせたりするのではなく、子どもの気持ちを察したり、対話の中でやりたくなる気持ちを刺激して“自分で考えよう”とすることを大切にしています。こうした一つひとつの積み重ねこそが、これから生きていく子どもたちが、様々な場面に出会った時に自分で考え、判断できる力へと繋がっていくのです。だからこそ、子どもたちに豊かな魅力を味あわせてくれる比治山を最大限に活用し、様々な体験、経験をしていきたいと思っています。きっとご家庭においても子どもたちは、園での出来事をたくさんお話していることと思います。大好きな保護者の方との対話は、より子どもたちの意欲を高めていきます。ぜひ、「今日はどんなこととして遊んだの？」とやりとりを楽しんでくださいね。

先日、給食に出るそら豆の皮をむいた年長さん。「皮を水につけておくとどうなるのかなあ？」という疑問から、毎日水を交換している子どもの姿に出会いました。もちろん、大人にとっての答えは一つかもしれませんが、子どもたちが疑問に思ったことを大切に、毎日変化していく過程を「どうなった？」と寄り添い、対話しながら楽しんでいきたいと思っています。

園長

